

## 施設紹介

## 財団法人心臓血管研究所付属病院

山下 武志\*

「心臓血管研究所」は、第一生命保険株式会社が、当時我が国において国民死亡率の上位を占め、益々増加が見込まれる循環器疾患に対する専門研究機関が欠けていることを痛感し、巨額の資金を寄付されたことに基づき、1959年5月、財団法人として発足した。本研究所の使命は、

1. “循環器疾患に関する研究を通して我が国の医療レベル向上に貢献すること”
2. “循環器疾患の治療を担う高質の医療スタッフを養成すること”
3. “循環器疾患に対する質の高い専門医療を提供すること”

であり、心臓血管研究所付属病院は、この“質の高い専門医療を提供する場”として1962年に港区赤坂で開院し、約50年の歴史を有する。

設立当初は12床という小規模なものであったが、1979年に赤坂から六本木に新築移転し、循環器内科単科病院として94床を有する病院となり、1986年には心臓血管外科を導入し100床を超えるベッ

ドをもつ病院として運営されてきた。

そして、2011年2月、現在の港区西麻布に新築移転すると同時に、新しい時代に即した循環器医療をめざし、最新鋭の医療機器のみならず、患者に精神的満足を与える医療環境を備えた病院として新たな運営が始まった。病床数は、医療の効率化をめざして74床としている(写真)。

標榜科は、循環器内科、心臓血管外科、放射線科、麻酔科、心臓リハビリテーション科で、循環器領域に特化した病院であることは設立当初から変化していない。病院は主に3つの大きな枠組みで構築されており、それぞれの枠組みの中で患者動線がより円滑になっている。外来部門(1階)は、CT、RI、心臓超音波検査などを含む生理機能検査などすべての検査が、外来診察室を中心として配列されている。2階では、最新鋭の手術室2室、心臓カテーテル検査室2室がICU/CCU(6ベッド)と直結し、シームレスでチーム医療が提供できるようになっている。3階、4階は一般病棟であるが、



写真 財団法人心臓血管研究所付属病院

\*心臓血管研究所 所長・付属病院長

個室を多く配備すると共に、大部屋での一人当たり面積が広がるような設計を行った。

当病院の外来患者延べ数は1年で約60,000人、初診患者数は約2,000人、そのうち約70%が他施設からの紹介によるものである。不整脈領域、冠動脈疾患領域、心不全領域、あるいはこれらの領域にまたがる疾患を有する患者がほぼ均等に紹介されている。侵襲的な治療実績を述べれば、年間手術総数は約200件、冠動脈造影検査約1,100件、経皮的冠動脈形成術約550件、カテーテルアブレーション約200件、デバイス植込み約130件が安定的な成績で実施されている。

これらの医療を中心的に担う医師(常勤スタッフ)は、循環器内科医14名、心臓血管外科医5名、放射線科医1名、麻酔科医1名の計21名、さらに全国から公募され選抜された内科レジデント(3年間研修)が9名、計30名の体制である。パラメディカルは、看護師・看護助手約100名、放射線技師・臨床検査技師・ME・理学療法士約40名、薬剤師・栄養士約10名、その他事務職員などを含めて、総勢230名で医療提供を行っている。当病院の使命の1つとして、将来の循環器医療を担う新たな世代の育成が掲げられており、医師・看護師・検査技師それぞれのセクションで上の世代から下の世代へと現場での活発な教育が行われ、様々なテーマの院内セミナーが定期的に毎月2回以上開催されている。「当病院で勤務したことがある」という職歴が、各医療者のキャリアアップにつながることを目標である。

最後に、おそらく当病院が他の病院と大きく異なる点は「研究所付属病院」という存在であり、それが当病院の特徴とも言えるので、この点について紹介したいと思う。

当研究所では設立当初より「研究と臨床は表裏一体であり、お互いにきわめて緊密な連携関係にある」という思想が貫かれており、その思想は米国でトップランク病院に位置するMayo Clinicと類似している。そのため、当病院ではすべての医師がその医師としての肩書きに拘らず、同時に研究員としても活動している。良い臨床を行おうとすれば必ず新しい疑問や解決できない課題にぶつかるわけであるが、それらは将来の医療を形作る貴重な疑問・課題である。医師として感じたこれら

の疑問・課題は、自ら医学研究者として将来のために解くべきである。これが当病院で、医師・研究者を分けていない大きな理由である。研究課題は各自が感じた疑問や課題から発するものであり、それぞれの研究員がもつ強みを生かした研究が設立当初より継続的に発信されてきた。

しかし、医療の進歩とともに医学分野における研究手法にも大きな変化や進歩がもたらされている。基礎的な研究分野では日進月歩は当然のことであるが、臨床的な分野でも従来の研究手法では欧米にますます後れをとることが明白な状況となっている。その象徴は、循環器領域で近年急速に発展した大規模臨床試験やコホート研究手法である。当研究所では、この分野においても欧米に後れを取るまいと2000年代前半より努力を重ね、不整脈領域、冠動脈疾患領域では医師主導の大規模臨床試験を自ら運営し、その結果を世界に発信している。また、このような経験を積んだ結果、2004年度より当病院初診者すべてを包括し、その予後調査を行うプロジェクト「Shinken Database」を開始した。このデータベースには現在種々の循環器疾患を有する例15,000例以上が登録され、経時的に予後調査を行っている。そしてこのデータベースから日本人患者の特性、あるいは治療に対する反応性などが解析され、日本人の持つ疾患・治療が海外と異なる点、あるいは注意しなければならない点などを継続的に発信している。国内で循環器領域最大の学会の日本循環器学会では、毎年数十演題がこのShinken Databaseから発表されていることは、多くの研究者の注目を浴びているところである。

研究所そして研究所付属病院として、医師が診療した過程や結果をデータベース化し、医師自らが感じた疑問や課題をその大きなデータベースを用いて解析し、解決する。このShinken Databaseは、当研究所そして付属病院設立時の思想、「診療と研究は表裏一体である」を各個人としてではなく、組織として具現化したものなのである。

当病院は、最新鋭の設備、快適な患者環境、向上心のある医師・職員、活発な教育、これらを最大限に活用しながら、より多くの患者を診療し、救い、そしてそのプロセスを科学として世界に発信する、そのような病院を目指している。